

なお、歯科におけるカタログの最初のものは明治28年8

月歯科学会月報第55号付録歯科治術学図譜であろう。

(日本大学松戸歯学部)

土肥慶蔵『日本皮膚病黴毒図譜』

刊行の意義

長門谷洋治

土肥慶蔵(一八六六—一九三〇)は明治三六(一九〇三)年に『日本皮膚病黴毒図譜』第一帙を朝香屋書店より上梓した。土肥が東京帝国大学の皮膚病学黴毒学講座の教授に就いたのは明治三一年であつたから、それから五年目の挙である。この図譜が上梓された最大の意義は、わが国の皮膚科学が翻訳的なものから脱皮して、わが国固有の皮膚科学を樹立したことを示した点にあらう。本図譜は日本と題していることに土肥の自負が感じられる。土肥は本図譜に、序文の類を記していないので、直接にその意図を知ることができないが、この類推に大きな誤はないだらう。今すこし上梓までの経過をみてみよう。

土肥は明治二三年に東大を卒業、外科に入る。翌二四年に皮膚病学黴毒学担任の初代教授に村田謙太郎が就くが翌

年病没、そのあとは外科学の宇野朗が兼任となる。二六年より欧州に留学中であつた土肥に、皮膚科学を学んで帰るよう指示があり、彼はウィーンでカポシ Kaposi, M.K. の門に入る。カポシはヘブラ Hebra, F.R. の弟子であり、彼は正統的な皮膚学を体得したことになるが、ここでヘブラの皮膚疾患図譜などに接して、自分も日本人を対象にした図譜をつくろうと考えた。さらに皮膚疾患の記録手段としてムラージュ Moulage (蠟製標本・蠟細工)があつたが、この両者の技法を学ばせるために彼は同郷(福井県)の伊藤有を呼びよせた。

伊藤は土肥の期待にこたえ、帰国後本図譜のすべてのスケッチを担当するなど、格調の高い仕事をなし、この面でのわが国のパイオニアとなつた。

西洋の図譜を手本にわが国のケースを図譜にする試みはまず解剖学の分野で行われ、臨床の面では外科・整形外科領域でいくつかの優れた図譜がのこされている。皮膚疾患も比較的記録の残しやすい分野で、華岡青洲関係のものに散見されるほか、梅毒の図譜はいくつかみられるが、明治維新までのものは描写に稚拙な感の多いものが多い。

一方、欧米の近代皮膚科学が翻訳などによりわが国に紹介されると、果たしてわが国にも欧米と同じ疾患が存在するのであろうかとの疑問がもたれた。皮膚科特有と思われる問題には皮膚色のことがある。従つて図譜の場合、欧米の図譜がそのままわが国のケースに応用できないといふどうかしきがあつた。土肥が教授就任五年目といふ比較的早い時期に、日本と冠した皮膚病図譜を出したことは、①日本にも発生率の相違はあれ欧米にみられると同じ皮膚疾患が存在する ②日本に特有と考えられる皮膚疾患がある

③皮膚疾患診断の最大の指南役は図譜であるとし、本図譜刊行でわが国皮膚科学の土台作りができると考えたからである。図譜は一疾患シートで別に説明文を付す形であり一回に五疾患(五シート)を帙に納めた。帙は縦が四六センチ、横が三一センチといふかなり大きなもので石版印刷によつた。当初の計画では二カ月に一帙刊行の予定であつたが、実際の刊行は大幅に遅れ最終の帙が出たのは明治四三年八月で、完成までに七年を要した。この原因は土肥の草稿の遅れにあると思われ、症例選択かその解説に時間がかつたのであろう。またスケッチにしろ、ムラージュにし

ろ、写真の場合と異なり、モデルとなった患者は大きな時間的忍耐を要したと思われる。現在ではカラー写真、カラー印刷の技術が進んで、スケッチやムラージュが用いられることはないし、患者の協力の間からも現在の方が当時より困難であろうと思われるが、スケッチやムラージュには写真と異なった長所や意義がある。本図譜により今日ではほとんど診ることのない頭症梅毒（文身者の丘疹梅毒という珍しい症例を含む）や皮膚結核、薬疹などの症例を当時の社会風俗（髪型、衣服など）とあわせて知ることのできるのがある。

ありがたい。土肥はまたこの図譜において、それまで邦訳が定まっていなかった毛癬・白癬・黄癬・疱疹などを提唱、これらはそのまま今日も用いられている。本図譜は一帙が三円、従って揃いでは三十円であった。出版部数・再版の有無などについては不明であるが、あまり多くは刷られず、再版はされなかったと推察する。当時ようやく医育機関でも皮膚科教室が独立する機運にあり、そこには本図譜が備えられていたと思われるが、実用書としてよく用いられた。また本図譜がシート形式であるのが却って禍いとなったのであろう、現存するのは稀である。しかるに京都

市の三宅宗純氏がお宅にその完全版の存することをお教え下さり、それをおみせ下さった。同氏の祖父の医師・宗淳氏が購入されたものであるという。本図譜といい、ムラージュといい、現在では医史学的にのみ顧みられるに過ぎないが、それがわが国皮膚科学に果たした役割は少なくないと考えられ、本図譜現存の意義は大きいといえる。

（大阪府豊中市 皮膚科開業）